

- 1 教育事業名 「無人島アドベンチャーキャンプ2024」
- 2 ね ら い 無人島での集団生活を通して、参加した子供達の感性が磨かれ、仲間との協働を通して認め合い、自らと向き合うことで大きく成長することを期待する。
- 3 期 日 令和6年7月26日(金)～8月1日(木) 6泊7日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家キャンプ場及び渡嘉敷村儀志布島
- 5 募集定員 小学5年生～中学3年生 24名 (小学生12名 中学生12名)
- 6 参加人数 24名
- 7 参加者内訳 5年生(男4名女3名) 6年生(男4名女1名)
1年生(男2名女2名) 2年生(男2名女4名) 3年生(男2名)
- 8 講 師 【チーフカウンセラー】
森 有紀子 氏、 大城 敏 氏、 与儀 早紀子 氏
【アシスタントカウンセラー】
矢貫 卓博 氏、 中川 美和 氏、 東江 宗典 氏
【看護担当】
一般社団法人 沖縄ウォーターセーフティ協会

9 実施プログラム

月 日(曜)	活 動 内 容			活動場所
	午 前	午 後	日 没 後	
7月26日(金)	海上時化による船の欠航により翌日へスライド			
7月27日(土)	海上時化により～29日キャンプ場で活動 班別活動、漁労活動、塩づくり 等			キャンプ場
7月28日(日)				
7月29日(月)	出発準備 船で儀志布島へ	拠点づくり	ボンファイヤー ふりかえり	儀志布
7月30日(火)	班別活動、漁労活動	班別活動、漁労活動 ソロ活動準備	ソロ活動(18:30～翌 7:00)	
7月31日(水)	班別活動、漁労活動 ソロ活動ふりかえり	班別活動、漁労活動 分かち合いの集い準備	分かち合いの集い	
8月1日(木)	班別活動、漁労活動 テント撤収 機材片付け	ふりかえり アンケート・感想文記入	渡嘉敷港から那覇泊港へ 無人島キャンプ報告会 ～解散～	泊場 キャンプ

10 事業の様子



開講式



ピパークテント設営研修



1日の振り返り



塩づくり



船で儀志布島へ



拠点づくり



儀志布での食事



就寝の様子



泳ぎ釣り



分かち合いの集い



活動後の清掃作業



泊港での報告会

11 参加者の声（アンケートより）

- ・スノーケルが最初はできなかったけど最後には綺麗なサンゴや魚をたくさん見ることができた。
- ・色々なありがたみを考えながら行動できるようになった
- ・できない時は人に頼ることが大切だということを知りました。
- ・無人島生活は大変だろうと思っていたけど実際は思っているより10倍くらい大変だった。
- ・ゴキブリが触れるようになった。
- ・日頃見ることのできない風景や感じることのない音を聞くことができた。

12 担当者所見

(1) 成果

- ・4年ぶりの儀志布島への上陸となった。無人島へ上陸が参加者の自信につながっているように感じた。
- ・不便、不自由の中での生活を通して、協力すること、誰かに頼ることの大切さを学んだといったコメントが見られた。
- ・非日常での環境での生活を通して、自然と協働していく姿が見られた。参加者にとってかけがえのない7日間になったように感じた。多くの人の支えにより成り立つ事業だと感じた。事前の調整や天候の対応など大変な事業ではあるが今後も是非継続していきたい。

(2) 課題

- ・参加費用の高騰などから参加希望者が例年より減少している。各学校から参加を1名とするといった基準を保てなくなってきている。
- ・学年、男女差により参加抽選の倍率に偏りが見られる。抽選基準に見直しが必要である。